

甲状腺機能低下症

人間は体内の環境をなるべく一定の状態に保つために、さまざまな臓器や器官の調節を行っています。その調節を担っているものは一つは神経であり、もう一つはホルモンといわれるものです。ホルモンは主に血液の中に放出され、全身の様々な臓器の働きを調整しています。

体の活動性、エネルギー使用のバランスなどを担っているものに、甲状腺ホルモンがあります。甲状腺ホルモンは、その名の通り、喉仏の下あたりに存在する甲状腺で作られ、血液の中に放出されています。この甲状腺ホルモンは多過ぎず、少な過ぎず、適切な量が保たれるようになっているのですが、時として多くなり過ぎたり、少なくなり過ぎたりといった事が病気で起こってきます。

今回は、この甲状腺ホルモンが不足した状態「甲状腺機能低下症」について紹介したいと思います。

甲状腺ホルモンは、体を活動的な状態にしていくホルモンですから、足りなくなると体の活動がゆっくりになって以下のような症状や異常がでてきます。

- ・ 何となく体がだるい。何だか元気がない。気分がすぐれない。
- ・ ぼおっとしている事が多くなった。
- ・ 最近、むくんできた。息切れするようになった。
- ・ 食べ過ぎているわけでもないのに徐々に体重が増えてくる。
- ・ 脈が遅い。
- ・ 健診でコレステロールが高くなっていると言われた。

甲状腺機能低下症は急激に症状が出ずに、徐々に出てくる事が多いので、なかなか病気だと気付かずに、重症化している場合があります。重症化すると心不全などを起こしてきますので、注意が必要です。早めに発見できれば、甲状腺ホルモンを飲み薬で補ってあげる事で、比較的簡単に安定した状態を保つ事が可能です。

ご自身の症状ももとより、ご家庭におられる高齢者の方などで、上記のような症状が気になる事がございましたら、医療機関で相談なさってみてください。

(文責 大西)